

3・11

エンジニアリング魂で
復旧をすぐに
復興をいまも

帰

宅難民となった約三五〇名の社員は、大崎本社でその夜を明かします。首都圏の交通インフラは麻痺していました。誰もが地震直後から家族の安否を確認し、親戚や知人や取引先を東北に持つ者は、現地との通信が絶たれたことに苛立ちと不安を覚えます。行ったほうが早い。その日のうちに東北へと向かった社員がいます。あの現場は無事なのか、一緒に働いた仲間は無事なのか。その思いは、誰もが同じです。翌週被害状況が明らかになると、現地調査を買って出た者たちが次々と東北へ向かいます。

行き先は、かつて担当した、ガスや上下水道や電力などインフラ施設です。寒さの中、風呂にも入れず水道や電気も使えない。生き延びた人たちの命をつなぐためのまさにライフラインです。一刻も早く復旧しないとなりません。

● 今年のCSR報告書では、私たちが手がけた、ならびに現在進行中の復旧工事についてお伝えします。被災地という現場における工事の困難さ、復旧により地域が取

り戻したものの、関わった者たちの思い——の記録です。

その中にひとつ、既存設備の復旧ではなく、建物を新設して釜石市に寄贈するプロジェクトがあります。結果として医療センターになりましたが、なにをつくるかを決めたのは私たちではありません。特命を帯びて、現地へと向かう担当者にトップはこう言いました。「市がほしいもの、市民が求めているものを訊いてこい！」

その地域が必要とするものを技術力と情熱で提供する。そこそそがエンジニアリング会社の本質であり、東北の復興に向けていまも活動は続いています。

《復旧案件》

- ① 釜石市鶴住居地区医療センター建設工事
- ② 釜石市災害廃棄物処理事業
- ③ 岩手県オイルターミナル(株)復旧工事
- ④ 矢の浦下水管橋復旧工事
- ⑤ 釜石港湾口防波堤復旧工事
- ⑥ 石巻ガス(株)ガス製造設備復旧工事
- ⑦ 登米市民病院南館耐震補強工事
- ⑧ 株伊藤製鐵所石巻工場復旧工事
- ⑨ JX仙台製油所三の橋復旧工事
- ⑩ 東京電力(株)広野火力発電所・燃料配管復旧工事